

PRESS RELEASE

【報道関係各位】

山王美術館 開館15周年記念展

コレクションでつづる 藤田嗣治・佐伯祐三・荻須高德展

ーパリを愛し、パリに魅了された画家たちー



2024年9月1日（日）～

2025年1月31日（金）

山王美術館

大阪市中央区城見2-2-27
06-6942-1117

佐伯祐三《パリの街角》1925年

「コレクションでつづる 藤田嗣治・佐伯祐三・荻須高德展 -パリを愛し、パリに魅了された画家たち-」

展覧会主旨

山王美術館は2024年に開館15周年を迎えます。

それを記念して開館15周年記念展は、

「山王美術館 コレクションでつづる 藤田嗣治・佐伯祐三・荻須高德展」を開催致します。

15年前の開館記念展と同タイトルを掲げた本展覧会。当時より当館の主要作家である、「藤田嗣治」、「佐伯祐三」、「荻須高德」の新たに加わったコレクションを含む当館所蔵の作品群より選りすぐりの作品を展示します。

藤田、佐伯、荻須の3人は時期は異なりますが、ともに東京美術学校（現・東京藝術大学）を卒業後パリに渡り、パリを中心に活動し、独自の画風を築き上げたことに共通点が見てとれます。

展示室3フロアで構成された本展覧会は、1フロア1作家の作品展示をすることで、より深くそれぞれの作家の生涯や画風の変遷を知ることができ、鑑賞を進めることで3人の世界観の違いを味わうことができます。

また、お互いの交友関係にも注目し、同時代に生きた画家たちの関係性をより深く紹介します。

パリを愛し、パリに魅了された3人の画家たちの芸術の世界をご堪能ください。

広報用画像



広報用画像 ①

藤田嗣治《二人の姉妹》1959年



広報用画像 ②

佐伯祐三《巴里街景》1924年



広報用画像 ③

荻須高德《サン・ドニ運河の工場》1951年

みどころ 1)

—藤田嗣治・佐伯祐三・荻須高德のパリの風景を描いた作品を並べて展示—

5階展示室では3人の画家が魅了されたパリの風景を描いた作品を並べて展示します。それぞれの画家が見つめた対象への眼差しやそこから生み出された画風の違いを見比べながらご鑑賞ください。

「パリの風景をテーマにした作品」



1910年代、藤田は当時彼が住んでいたパリのモンパルナス付近の風景画を多く描いていました。それは市内の名所旧跡とは違った、町外れの風景でした。本展覧会初展示となる「パリ風景（モンパルナス風景）」は自身の画風を模索していた若き日の藤田作品を知ることのできる貴重な1作です。



本作は1926年9月 第13回二科展出品作（滞欧作19点出品のうちの1点）。第一次パリ時代の代表的な作品と言えます。フランス滞在2年目になる1925年、佐伯の描く対象は郊外から徐々にパリ市内の街並みへと移ります。躍るような文字、薄汚れた壁や窓、まっすぐ奥へと伸びる石畳などパリの日常を単なる情景描写に留まらない佐伯独自の画風が見てとれます。



1927年にパリに留学以降、第二次世界大戦の戦中から戦後にかけて一時帰国した時期を除き、84歳で亡くなるまでパリを拠点に制作活動に励んだ荻須。本作も近代都市を象徴するパリの風景ではなく、裏街に立ち並ぶ石造りの堅牢な建物や色褪せた壁といった、そこに暮らす人々の生活の匂いがしみついた風景を愛着と共感を寄せて描いた作品と言えます。

〈初展示作品〉

藤田嗣治「パリ風景（モンパルナス風景）」1917年

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446

佐伯祐三「パリの街角」1925年

荻須高德「パリの風景」1950-1955年

© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446

—近年収蔵した3名の画家の新コレクションの中から藤田嗣治6点、佐伯祐三3点、荻須高德2点の絵画を本展にて初展示—

藤田嗣治は約30点の展示作品の内、6点が初展示となります。1920年代頃の《少女の顔》や4人目の妻・マドレーヌを描いた《マドレーヌと風車》等を展示。

佐伯祐三は東京美術学校（現・東京藝術大学）時代に妻・米子を描いた《米子像》や最晩年、後輩の荻須高德らとともに荒行ともいえるモランでの写生旅行で描き上げた《モラン風景》等3作品を初展示。

荻須高德は戦前のパリ時代に描いた《ポントワーズの船着き場》と《モンマルトルのサクレ・クール寺院》の2点を初展示します。

本展ではこれまでの収蔵品に加え、新たに加わった新コレクションにより、それぞれが到達した芸術の世界をご覧頂けます。



〈初展示作品〉

佐伯祐三《モラン風景》1928年



〈初展示作品〉

佐伯祐三《米子像》1922年頃



〈初展示作品〉

佐伯祐三《アネモネ》1925年頃

〈初展示作品〉

藤田嗣治：《パリ風景（モンパルナス風景）》《少女の顔》《マドレーヌと風車》《アトリエからの眺め、エッフェル塔》
《ジフ＝シュル＝イヴェットのサン・レミ教会》《パリのムフタール通り》

佐伯祐三：《モラン風景》《米子像》《アネモネ》

荻須高德：《ポントワーズの船着き場》《モンマルトルのサクレ・クール寺院》

みどころ 3)

—収蔵作品のみによる展覧会—

当館の最大の特徴ともいえる収蔵作品のみによる展覧会を開業より15年続けてきました。

本展覧会も藤田嗣治・佐伯祐三・荻須高德が描いた収蔵品の中から、選りすぐりの作品により、各作家の世界観をご紹介します。

ここでしか会えない芸術作品の魅力を余すところなくご堪能ください。

5階 展示室

佐伯 祐三展

画家としての生涯を「描くこと」ただそれだけに捧げ、パリの街角や店先を独自の荒々しい筆致で描いた佐伯祐三。

本展ではパリの街並みや一時帰国時の日本の風景の他、当館初展示となる《米子像》、最晩年の《モラン風景》、《アネモネ》を含む全23作品を展示。

収蔵品による佐伯祐三回顧展を開催致します。

短くも鮮烈な人生を送った佐伯祐三の世界をご覧ください。

Saeki Yuzo

1898-1928



佐伯祐三《自画像》1917年頃



佐伯祐三《滞船》1926年頃



佐伯祐三《オニ一風景》1925年

4階 展示室
荻須 高德展

1927年にフランスへ渡り1940年に戦況悪化の為、帰国をするも終戦後の1948年には日本人画家として戦後始めてフランスへの入国が許可され渡仏します。

以後、1986年に亡くなるまで、半世紀以上にわたりパリで画家として生きた荻須高德。

大胆な構図と温かみのある色調で描かれた作品からは、歴史あるヨーロッパの息吹が生き生きと伝わってきます。

本展では当館収蔵の荻須作品全35点の中より、美を感じ追い求めたパリの風景を中心に、Pont Neufやベニスといったヨーロッパ風景を描いた作品、約26点を紹介します。



荻須高德「自画像」1935年

© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446

Oguiss Takahiro

1901-1986



荻須高德「ヴィレット運河」1938年

© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446



〈初展示作品〉

荻須高德「Pont Neufの船着き場」1937年

© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446

3階 展示室

藤田 嗣治展

1920年代エコール・ド・パリを代表する画家としてパリ画壇の寵児となり、1950年に再渡仏した後はフランス国籍を取得、晩年はキリスト教の洗礼を受け、81年の波乱の生涯を彼の地で終えた藤田嗣治。

本展では、戦後再びパリに足を踏み入れた藤田がみつめた街の風景や、子どもたちの作品を中心に、当館所蔵の藤田作品全66点の中より約30点をご覧頂きます。



藤田嗣治《自画像》1931年

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446

Léonard Foujita

1886-1968



藤田嗣治《ヴァンドーム広場》1951年

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446



〈初展示作品〉

藤田嗣治《少女の顔》1920年代頃

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446

PRESS RELEASE



【開催概要】

【展覧会名】開館15周年記念展

「山王美術館 コレクションでつづる 藤田嗣治・佐伯祐三・荻須高德展」
-パリを愛し、パリに魅了された画家たち-

【開催期間】2024年9月1日（日）～ 2025年1月31日（金）

【開催会場】山王美術館 [540-0001 大阪市中央区城見2丁目2番27号]

【開館時間】10時～17時（最終入館16時30分）

【休館日】火曜日・水曜日・年末年始（12月29日～1月2日）

【入館料】一般 1,300円
大学・高校生 800円
中学生以下 500円
（保護者同伴に限り2名様まで無料）

【お問合せ】一般財団法人 山王美術館
540-0001 大阪市中央区城見2丁目2番27号
本田 亜紀子
TEL:06-6942-1117
FAX:06-6942-8700
E-mail a.honda@hotelmonterey.co.jp

【公式ホームページ】<http://www.hotelmonterey.co.jp/sannomuseum>

広報画像に関するご案内

藤田嗣治・荻須高德の作品は著作権保護がなされております。広報用画像素材として藤田嗣治1点と荻須高德1点の画像をご用意しておりますが、ご掲載にあたりまして、使用の範囲などが著作権管理団体より定められております。

別紙「広報画像に関するご案内」をご一読頂きました上で、当館までお問い合わせください。ご協力の程、どうぞ宜しくお願い致します。

尚、佐伯祐三の作品は著作権保護対象外となりますので、上記の限りではありません。

※詳しくは次ページの「広報画像に関するご案内」をご参照ください。

広報画像に関するご案内

重要

広報用画像につきましては、【紙媒体での掲載】に限り①③の作品画像をご利用頂くことが可能です。ただし、以下の通り使用に際しての範囲が別途定められております。この範囲内においてご紹介頂ける場合のみとなっておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【著作権使用にあたっての範囲】

- 紙媒体の掲載のみに限ります。WEB媒体でのご掲載にあたっては、別途著作権管理団体への使用許諾申請と使用料が必要となります。
- 使用にあたっては、作品画像の近くにクレジットを明記すること。
作家名、《作品名》、制作年、山王美術館蔵、
許諾クレジット
①の作品画像（藤田嗣治作品）
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446
③の作品画像（荻須高德作品）
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3446
- 展覧会情報に限定し、文字数が400字以内であること。
- 作品の複製寸法 掲載サイズを50平方センチ未満にすること。
- 原作品に忠実に複製使用すること。
全図にての使用をお願い致します。
部分使用、作品への文字乗せや他のイメージを重ねることはできません。

【その他の注意事項】

- 作品画像の使用は本展を紹介する場合に限らせて頂きます。
- 展覧会終了後の画像使用はできません。
- 掲載内容の事前確認の為、必ずゲラを当館担当者までFAXまたはメールにてお送りください。
- 掲載誌（紙）を当館宛に2部（冊）ご寄贈ください。
以上を遵守頂けない場合、問題が生じた際、主催者では一切責任を負いかねます。ご留意の程、宜しく願い致します。
尚、HP、携帯サイトなどへの二次使用につきましては、免除対象に含まれておりません。画像使用はお控えください。
文章での紹介として頂ければ幸いです（山王美術館HPへのリンク可）。
各媒体社のホームページを含め、WEB媒体での作品画像掲載にあたっては、別途、著作権管理団体への使用許諾申請と著作権使用料が必要となります。

お問い合わせ

広報画像使用に際しましては、まずは下記担当者までお問い合わせください。
当館より「広報用画像使用申込書」をお送り致します。必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡くださいませ。

一般財団法人 山王美術館
担当者：本田 亜紀子
TEL:06-6942-1117
FAX:06-6942-8700
E-mail a.honda@hotelmonterey.co.jp
540-0001 大阪市中央区城見2丁目2番27号